

V SVスポーツウォール[間柱胴縁工法]

壁材施工の工法

壁下地(木下地)に対して壁材を施工する工法です。接着剤と釘の併用により行って下さい。

施工前の点検

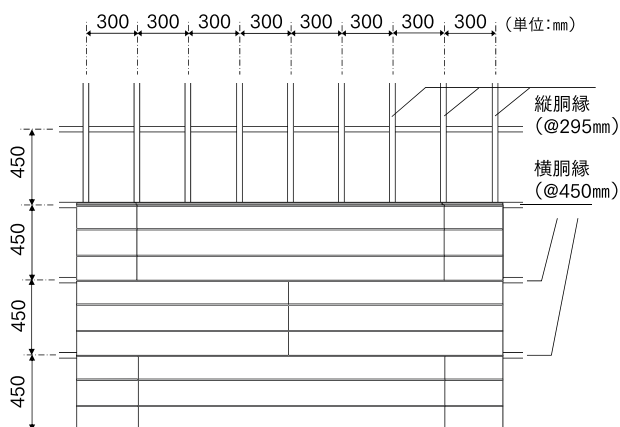
壁下地の納まりにつき下記項目について点検し、不備な点があれば申し入れ補正をしてから作業を進めて下さい。

- ①縦胴縁の間隔は、300mmピッチであること
- ②縦胴縁と横胴縁が確実に固定されていること
- ③縦胴縁と横胴縁の施工面が段差無く、平面レベルがとれていること

下地材

木下地となる胴縁は乾燥製材(含水率15%以下)を使用し、寸法は指定によります。(図1参照)

図1「SV スポーツウォールと壁下地[胴縁]の取り合い」



留め付け部材

接着剤(酢酸ビニル樹脂エマルジョン以上の性能を有する接着剤)と目地部への釘留め(φ2.15mm×長さ38mm)の併用とします。

張り込み

壁下地への張り込み並びに釘留め位置は以下の図2・3の通りとして下さい。

尚、本製品は表面材の天然木を使用しておりますので、1枚1枚全て色柄が異なります。張り込む前に必ず仮並べを行い全体の色柄のバランスを取って下さい。

釘にて留め付ける箇所に壁下地が来るように割り付け位置を張り込む前に確認調整して下さい。

図2「SV スポーツウォールへの釘等の留め付け位置」

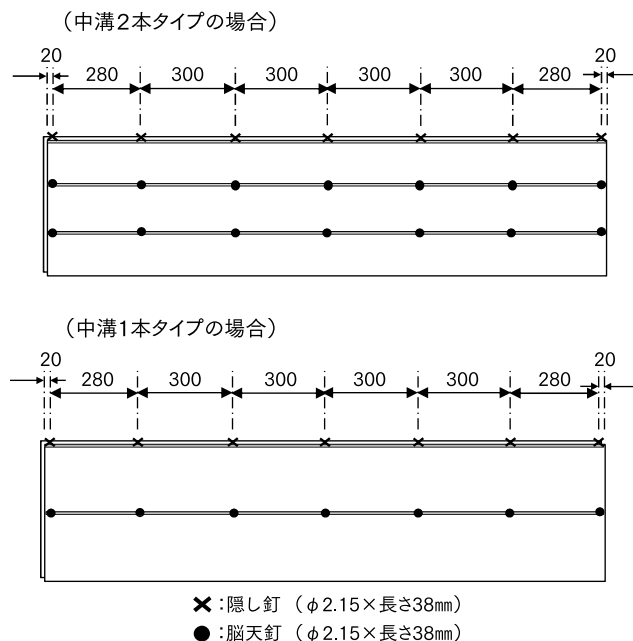
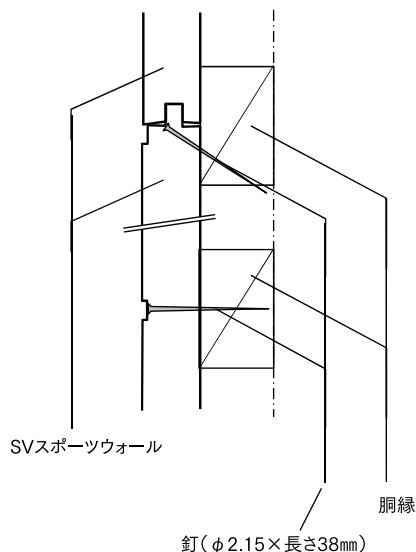


図3「SV スポーツウォールへの釘留め付け部の断面図」



幅木、回り縁等の役物を施工する場合には、指定によります。

点検

壁材の張り込み作業が完了したら、壁面全面を点検し、隙間等が無いことを確認して下さい。

完了報告

VI.共通項目完了報告(P11)をご参照下さい。

安全管理

VI.共通項目安全管理(P11)をご参照下さい。